

# 海洋キャンプが参加者の社会的スキルに与える影響について

益山 晋一(鹿屋体育大学)

村井 伸二(九州大学)

柳 敏晴(鹿屋体育大学)

千足 耕一(鹿屋体育大学)

key words : 組織キャンプ 海洋プログラム 社会的スキル 野外活動

## 1. はじめに

平成10年に改訂された新学習指導要領で、「自然とのかかわりの深い活動」について、新たに水辺活動という言葉が加わり高い関心が示されている。

海洋プログラムを用いた、今回の組織キャンプにおいては、ヨット・カヌー/カヤック・スキングダイビングの3種目の活動を通して、海の自然への正しい認識と理解、安全への対応とその行動、自己達成への喜びや感動を与えること等を目的とした。

組織キャンプとは、自然環境の中で訓練された指導者の下に、共通した目標を持ち、共同生活を行う体験プログラムである。組織キャンプでは、現代社会における非日常的な野外活動体験を経ることで、さまざまな効果があることが、研究の中で明らかになってきている。そこで、組織キャンプという小社会においても対人関係を円滑に進めるスキルを要するという点で、日常生活に組織キャンプによって獲得した社会的スキルを活用できるのではないかと考えられる。組織キャンプの研究において、組織キャンプの評価や効果に関する分野の充実が求められている。組織キャンプにおいて「誰でも・どこでも・いつでも」求めることができる評価の指標が必要ではないかと考えられる。

本研究は、海洋プログラムを実施する組織キャンプに着目して、参加者の社会的スキルがどのように変化しているのかを調査し、同時に参加者のメンタルヘルスを調査することで、技術的側面と精神的側面の効

果を明らかにし、今後の組織キャンプ評価の一資料となることを目的とした。

## 2. 研究の方法

鹿屋体育大学海洋スポーツセンターにて、2002年7月24日から26日にかけて行われた「少年少女海洋スポーツキャンプ」に参加した小学3年生から高校3年生、計26名を対象とした。

社会的スキルとメンタルヘルスを、キャンプのPreとPostで質問紙を用いて調査を行った。

社会的スキルは島田ら(1996)によって作成された、児童用社会的スキル尺度15項目、メンタルヘルスは西田・橋本(1999)によって作成された児童用精神的健康パターン診断検査30項目(以下MHPC.2と略記する)を用いて、キャンプのPreとPostで調査を行った。また、高橋(2000)によって作成された体育授業の形成的授業評価票に準拠し、手を加えたものを振り返りシートとし、活動前と活動後に記入してもらい、キャンパーによる評価と合わせて分析を行った。

## 3. 組織キャンプの概要

「少年少女海洋スポーツキャンプ」の目的は、静穏な錦江湾にある鹿屋体育大学海洋スポーツセンターと、高隈の山にある国立大隈少年自然の家を活用して、海洋スポーツ体験と共同宿泊体験を通し、次代を担う青少年に「生きる力」を習得させるために、ヨット、カヌー/カヤック、スキングダイビングを中心に、海洋スポーツの基礎技

術の習得と、磯観察等による環境学習を行うことである。

プログラムは、ヨット、カヌー/カヤック、スキndaイビングを3グループでローテーションを組み、1日目午前、1日目午後、2日目午前で各3種目を行った後、2日目午後からは自由選択という形式をとった。しかし台風のため、2日目午後と3日目午前は、鹿屋体育大学室内プールにて、スキndaイビングのプログラムに変更された。また、3日目午後は、鹿屋体育大学海洋スポーツセンターでクラフトを行った。材料は、周辺の砂浜探索をし、それぞれ集めてくるというように、プログラムの変更を余儀なくされた。

宿泊は、国立大隈少年自然の家にて行われた。また、25日のキャンプファイヤーについては、台風の影響により室内でのレクリエーションになった。

#### 4. 結果と考察

社会的スキルは、キャンプのPreとPostで有意な差が見られなかった(表1)。MHPC.2の結果に関しては、生活の満足度において有意な差が見られた(表2)。組織キャンプの形成的評価法は、「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」の4つの因子において、「学び方」に関して、3日目の値が大きく減少していた(図1)。

社会的スキルは、運動スキル同様、実践の中で獲得される。プログラムの変更により、実践場面が減少したため、社会的スキルへの影響がなかったと考えられる。セーリングのような特殊な活動においては、グループ間での問題解決のためのプロセスが発生すると考えられるが、室内の安全な環境でのスキndaイビングにおいては、海で実施をするような冒険的要素がないため、このような結果になったと考えられる。しかしながら、MHPC.2の生活の満足度に有意

な差が見られたことから、活動自体には満足していたと考えられる。

組織キャンプの形成的評価法で、3日目の「学び方」の項目について値が大きく減少していたのは、3日目のプログラムが起因していると考えられる。「成果」の項目も減少していることから、単調なプログラムになり、目的とする海洋プログラムが行えなかったことから、モチベーションが低下したことが予測される。

MHPC.2の下位尺度と振り返りシートの下位尺度との相関を見た結果、1日目と2日目において「引きこもり」が振り返りシートとのほとんどの項目に相関が認められ、3日目には「学び」との間に相関が見られた。また、2日目にMHPC.2の「目標・挑戦」が振り返りシートの「学び」と相関が認められ、3日目には「目標・挑戦」が「意欲・関心」との相関が認められた。

本研究で用いた振り返りシートに「仲良しの輪」という項目を設定した。大きな輪からだんだん小さな輪になり、仲間との心理的な距離をイメージで答えてもらうというものであったが、図2に見られるように1日目から漸進的に高い値を示していた。

本研究に用いた児童用社会的スキル尺度、MHPC.2、組織キャンプの形成的評価法を参加者の全てに適用したが、参加者は小学3年生から中学3年生であり、精神の発達・発育段階を踏まえた調査方法であったとは言い難い。社会的スキルの獲得に関しても、短期のプログラムではキャンプの効果を得られにくいと考えられる。正の社会的スキルを遂行したとしてもそれを相手がどのように受け取っているかという研究はあまりなされておらず、相手との関係を考慮に入れた社会的スキル獲得の過程を調査していく必要があると考えられる。

本キャンプでは、台風によりプログラムの

変更が余儀なくされたが、荒天時のプログラムを検討していかなければならないと考えられる。室内でのスキndaイビングという単一の種目に限らず、他のプログラムをあらかじめ用意し、実際に臨むことが必要である。

本キャンプにおいて、社会的スキルの有意な向上やメンタルヘルスの有意な改善はあまり見られなかった。しかし、このような事例の積み重ねが組織キャンプの熟成、発展につながると考えられる。

### 引用・参考文献

- 1) 嶋田洋徳、1996、行動療法研究、指導の社会的スキル獲得による心理的ストレス軽減効果、第22巻第2号
- 2) 西田順一、2002、組織キャンプ体験による児童の社会的スキル向上効果、野外教育研究、第5巻第2号
- 3) 西田順一、2001、組織キャンプ体験による心理的効果に関する研究、九州大学健康科学センター
- 4) 七木田文彦、2002、保健授業評価表作成の試み－中学生の授業評価構造に着目して－、学校保健研究、第44号
- 5) 高橋健夫、2000、子供が評価する体育授業過程の特徴：授業過程の学習行動および指導行動と子供による授業評価との関係を中心にして、学校保健研究、第45号
- 6) 西田順一・橋本公雄・柳敏晴、2002、児童用組織キャンプ体験評価尺度の作成および信頼性・妥当性の検討、野外教育研究、第6巻第1号
- 7) 西田順一・橋本公雄・徳永幹雄・柳敏晴、2002、児童の組織キャンプ参加に伴う体験内容の測定の試み、九州スポーツ心理学研究、第14巻
- 8) 相川充、2000、人づきあいの技術－社会的スキルの心理学－、サイエンス社
- 9) 菊池章夫・堀毛一也、1994、社会的スキルの心理学－100のリストとその理論－、川島書店

表1 社会的スキルの海洋キャンプ前後の比較

		N	MEAN	S.D	t 値
向社会的スキル	Pre	19	20.53	3.66	-0.69
	Post		21.00	4.46	
引っ込み思案行動	Pre	17	14.41	2.12	1.09
	Post		13.88	0.78	
攻撃行動	Pre	20	14.40	1.82	-1.17
	Post		14.90	1.80	

表2 メンタルヘルスの海洋キャンプ前後の比較

		N	MEAN	S.D	t 値	
怒り感情	Pre	21	6.00	1.41	0.15	
	Post		5.95	1.32		
自信	Pre	19	12.68	3.06	-1.19	
	Post		13.26	3.49		
生活の満足度	Pre	20	15.45	3.75	-3.72	***
	Post		17.45	2.87		
疲労	Pre	21	6.67	2.35	-0.13	
	Post		6.71	2.31		
引きこもり	Pre	21	5.95	1.53	0.75	
	Post		5.76	1.61		
目標・挑戦	Pre	17	15.71	3.31	-1.90	
	Post		17.06	3.29		

\*\*\*p<0.001

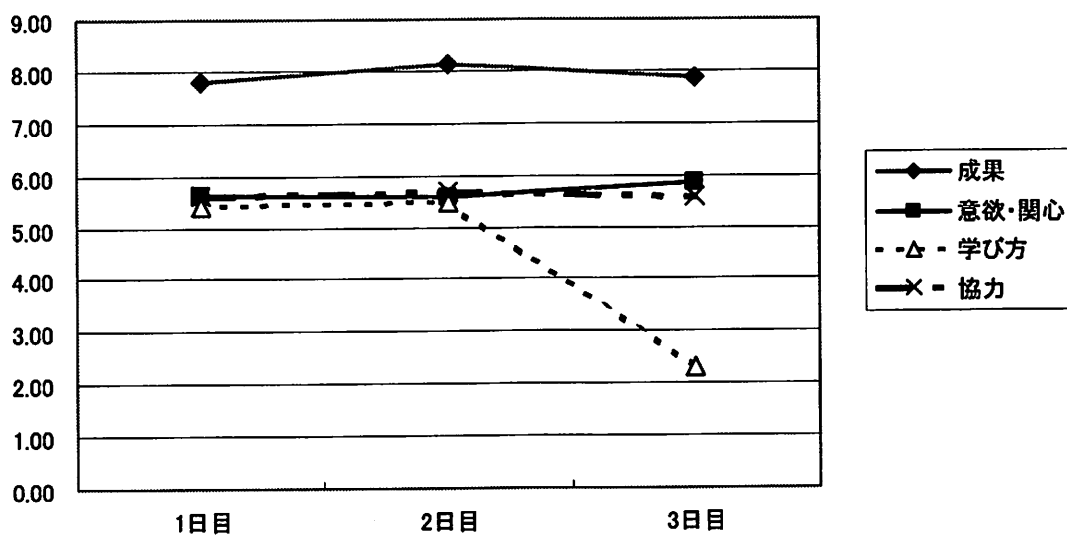


図1 組織キャンプの形成的評価法の得点推移

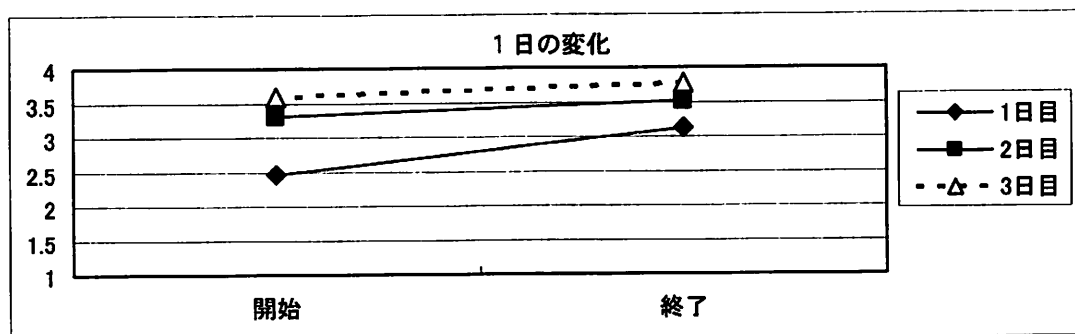


図2 仲良しの輪の得点推移

表3 MHPC.2と組織キャンプの形成的評価表の相関（1日目）

	怒り感情	自信	生活の満足度	疲労	引きこもり	目標挑戦	成果1	意欲1	学び方1	協力1
怒り感情		25	25	25	26	25	23	23	22	23
自信	-0.09		25	24	25	24	22	22	21	22
生活の満足度	0.13	0.50*		24	25	24	22	22	21	22
疲労	0.18	-0.11	-0.08		25	24	22	22	21	22
引きこもり	0.29	0.04	0.03	0.53**		25	23	23	22	23
目標挑戦	-0.09	0.76***	0.46*	-0.19	-0.15		22	22	22	22
成果1	0.24	-0.18	0.04	-0.14	0.24	-0.18		23	22	23
意欲1	0.09	-0.33	-0.07	-0.50*	-0.70***	-0.16	0.45*		22	23
学び方1	0.07	-0.06	0.09	-0.36	-0.61**	0.03	0.35	0.73***		22
協力1	-0.14	-0.04	0.16	-0.21	-0.61**	0.07	0.43*	0.77***	0.60**	

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

表4 MHPC.2と組織キャンプの形成的評価表の相関（2日目）

	怒り感情	自信	生活の満足度	疲労	引きこもり	目標挑戦	成果2	意欲2	学び方2	協力2
怒り感情		25	25	25	26	25	26	26	26	26
自信	-0.09		25	24	25	24	25	25	25	25
生活の満足度	0.13	0.50*		24	25	24	25	25	25	25
疲労	0.18	-0.11	-0.08		25	24	25	25	25	25
引きこもり	0.29	0.04	0.03	0.53**		25	26	26	26	26
目標挑戦	-0.09	0.76***	0.46*	-0.19	-0.15		25	25	25	25
成果2	0.05	-0.03	0.32	-0.35	0.24	0.23		26	26	26
意欲2	0.09	-0.05	0.07	-0.16	-0.62**	0.10	0.31		26	26
学び方2	-0.24	0.36	0.24	-0.20	-0.50**	0.53**	0.18	0.60**		26
協力2	0.07	-0.25	0.01	-0.20	-0.28	-0.31	0.00	0.21	-0.15	

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

表5 MHPC.2と組織キャンプの形成的評価表の相関（3日目）

	怒り感情	自信	生活の満足度	疲労	引きこもり	目標挑戦	成果3	意欲3	学び方3	協力3
怒り感情		25	25	25	26	25	26	26	26	26
自信	-0.09		25	24	25	24	25	25	25	25
生活の満足度	0.13	0.50*		24	25	24	25	25	25	25
疲労	0.18	-0.11	-0.08		25	24	25	25	25	25
引きこもり	0.29	0.04	0.03	0.53**		25	26	26	26	26
目標挑戦	-0.09	0.76***	0.46*	-0.19	-0.15		25	25	25	25
成果3	-0.07	0.06	0.37	-0.02	0.09	0.26		26	26	26
意欲3	-0.26	0.36	0.38	-0.17	-0.16	0.40*	0.25		26	26
学び方3	0.19	-0.08	0.11	0.00	0.53**	0.07	-0.04	-0.25		26
協力3	-0.16	-0.05	-0.16	0.04	-0.30	-0.18	0.11	0.04	-0.61	

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001